

第5回 デフリンピック運営委員会
(議事概要)

1 開催日時

2024年3月6日(水) 18時から19時30分まで

2 開催場所

戸山サンライズ全国障害者総合福祉センター2階中会議室及びオンライン

3 構成員等

○委員(構成員)

委員長 久松 三二(一般財団法人全日本ろうあ連盟 常任理事)
石原 保志(国立大学法人 筑波技術大学 学長) ※欠席
延興 桂(公益社団法人 東京都障害者スポーツ協会 会長)
畑中 淳子(弁護士)
早瀬 久美(デフリンピック選手)
薬師寺 道代(医師)
横山 英樹(東京都生活文化スポーツ局長)
太田 陽介(一般財団法人全日本ろうあ連盟 理事)

○事務局

倉野直紀(一般財団法人全日本ろうあ連盟 デフリンピック運営委員会事務局長)

4 要旨

【事務局 説明】

- ・12月の第5回運営委員会では、昨年11月に策定した開催基本計画の考え方をもとに、適切な大会規模について皆様にご確認承認を頂いた。
- ・本日は、2024年度事業計画案、予算案について諮りたい。

【議事進行】

(久松委員長)

- ・それではこれより議題に基づき議事に入る。まず、2024年度事業計画案について、デフリンピック運営委員会から説明させて頂く。

○議題(1) 2024年度事業計画案について

(倉野事務局長)

- ・大会準備業務として、大会開催に向け、多方面との調整等に取り組む。
- ・内容については、ICSDや関係団体等との調整、連携、全国の気運醸成イベントの検討、推進、社会的・文化的プログラムの作成、公表、寄附の受入れ、国内・国外への大会情報の発信を、東京都スポーツ文化事業団等と連携、また調整をしながら行っていく。
- ・また、運営主体として、都のガイドライン等、大会運営組織のガバナンスセルフチェックリストを踏まえ、ガバナンスやコンプライアンスの継続した確保に引き続き取り組んでいく。
- ・具体的には、コンプライアンス推進にかかる基本方針やコンプライアンス推進計画等に基づく役職員等向けコンプライアンス研修を実施する。
- ・また、契約・調達管理会議への契約・調達案件付議、大会専用の会計の設置・運用、内部

監査・監事・外部監査人が密に連携した三様監査体制を構築し、監査機能を強化、情報共有等の実施等、契約や会計の透明性・公正性の確保に取り組んでいく。

- ・この他、利益相反管理委員会において、役職員等の利益相反管理の遵守状況の確認、必要に応じた調査の実施等、コンプライアンス確保に向けて運用していく。

○議題（2）2024年度予算案について

（久松委員長）

- ・次に、2024年度予算案について、デフリンピック運営委員会から説明させて頂く。

（倉野事務局長）

- ・今年度の予算策定時には、運営委員会会計に連盟本体が負担する費用も含めていたが、改めて考え方を整理した。2023年の予算作成時は、給料、賃借料、光熱水費を運営委員会会計に予算を計上したが、連盟本体で負担している費用のため、運営委員会会計から除外した。2023年度については、補正予算にて対応し、2024年度向けの考え方に基づいて決算を行う予定。
- ・2024年度については、先ほど、事業計画案の中でも説明させて頂いたが、ICSD等との連絡調整、全国気運醸成イベントの検討・推進、大会情報の発信等を計上している。
- ・経費の内訳としては、主に広報費として600万円、諸会議における委員日当を含む旅費交通費として80万円、運営委員会等の会場代として会議費20万円、そのほか国際手話通訳、日本手話言語通訳、大会情報の発信に係るウェブサイトに関する費用、外部監査等の雑役務費を含めて、合計で850万円となっている。
- ・財源は、連盟の他会計からの繰入金により運営委員会の経常費用を充当する。

【質疑応答】

（久松委員長）

- ・出席者の方々から質疑応答を行い、採決に入りたい。議題（1）2024年度事業計画案について皆様いかがか。

※委員からの質疑なし

- ・質疑なしとのことで、採決に入る。賛成の方は挙手をお願いしたい。
- ・委員の皆様が全会一致で賛成を頂いたので、議題（1）2024年度事業計画案については承認された。

- ・次に、議題（2）2024年度予算案について皆様いかがか。

※委員からの質疑なし

- ・質疑なしとのことで、採決に入る。賛成の方は挙手をお願いしたい。
- ・委員の皆様が全会一致で賛成を頂いたので、議題（2）2024年度予算案については承認された。

【議事進行】

（久松委員長）

- ・次に、報告に入る。まず、利益相反管理研修及びコンプライアンス研修の実施について報告させて頂く。

○報告（1）利益相反管理研修及びコンプライアンス研修の実施について

（倉野事務局長）

- ・2023年度の利益相反管理研修及びコンプライアンス研修の実施状況について報告する。
- ・デフリンピック運営委員会の役職員に対し、利益相反管理研修及びコンプライアンス研修を書面で実施した。
- ・1月に行った利益相反管理研修は、利益相反管理体制と役職員が遵守すべきルールを理解を図ることを目的としている。その内容は「利益相反とは」「利益相反となる事例」「利益相反に関する自己申告書」「利益相反管理チェックシート提出の必要性」であった。
- ・2月に行ったコンプライアンス研修Ⅰは、コンプライアンスを推進し、役職員の規範意識の向上を図ることを目的としている。その内容は「コンプライアンスとは」「内部通報制度について」「デフリンピック運営委員会における内部通報制度の設置状況」であった。
- ・両研修とも、各役職員からの実施完了報告の提出を受け、実施確認を行ったところ。
- ・今後予定している研修内容は、「汚職防止」「組織管理の視点からのサービス事故防止」「役職員自らの取組としての非行防止」である。
- ・今後も半年に1回両研修を実施し、デフリンピック運営業務に係る役職員の規範意識醸成を図るとともに、役職員がコンプライアンスに反することなく健全に業務を遂行できているか、随時確認する。

【議事進行】

（久松委員長）

- ・次にデフリンピック・フェスティバルについて報告させて頂く。

○報告（2）デフリンピック・フェスティバルについて

（倉野事務局長）

- ・2023年度に実施するデフリンピックの気運醸成に資する取組に対し、全国8ブロックで各1か所実施として、10万円を限度として助成している。
- ・助成要件、対象経費等については、第3回運営委員会で報告済みであるが、対象とする経費は、諸謝金、旅費、借損料、印刷製本費、消耗品費、通信運搬費、雑役務費、保険料、委託料である。
- ・2023年度に実施した取組に対する決算状況は、全取組が終了したのち、次回運営委員会にて報告予定である。
- ・第3回運営委員会で報告した開催済は、北海道ブロック（札幌市）、東海ブロック（静岡県）、九州ブロック（福岡県）である。東北ブロック（福島県）は第3回運営委員会以降に開催したため、ここで報告する。
- ・福島では11月12日に福島県との共催で開催。小学生32名が参加。いわきFC、日本ろう者サッカー協会、日本ブラインドサッカー協会の協力を得て、デフサッカー体験、ブラインドサッカー体験、簡易手話体験を行い、障害のある選手たちやいわきFCの選手との交流を通して、デフリンピック認知度向上や共生社会について考える機会となった。
- ・申請承認済みは、関東ブロック（神奈川県）、中国・四国ブロック（鳥取県）である。な

お、北信越ブロック（石川県）は開催の方向で調整中とのことで、状況を共有しながら助言を行っていく。

- ・また、デフリンピック・フェスティバルの報告をもとに、分析を行い、来年度の気運醸成事業の検討および策定に活かしていく。

【議事進行】

（久松委員長）

- ・次に、東京都の令和5年度デフリンピックの都内気運醸成に向けた取組みについて報告させて頂く。

○報告（3）令和5年度デフリンピックの都内気運醸成に向けた取組みについて

（清水部長（東京都））

- ・2025年に東京でデフリンピックが開催されるということを知ってもらうとともに、大会を契機に、障害のあるなしに関わらず、互いの違いを認め合う共生社会の実現につなげていけるよう、取組みを進めてきた。
- ・大会の特設 Web サイト「TOKYO FORWARD 2025」の開設について。このサイトは、デフリンピックと、同年に開催される世界陸上の情報を発信していくプラットフォームとして、8月に開設した。両大会の概要を掲載しているほか、デフリンピックについても注目選手や社会で活躍する方々の紹介、大会関連イベントの報告など、多くの人たちに様々な情報を分かりやすく届けることができるよう、日々情報を発信している。
- ・次に、「エンブレム」について。筑波技術大学の学生にエンブレムのデザイン案を作成していただき、9月3日にグループワークを実施し、都内中高生の投票によりデザインが正式決定した。
- ・続いて、「デフリンピック応援アンバサダー」について。大会の気運を高めていくため、手話言語に理解がある方から3名の方々に就任いただいた。また、アスリートの視点から大会のPRをしていただくため、今年の1月に陸上選手の朝原宜治さんにもご就任いただき、4名の方で引き続きイベントへの参加など、気運醸成と一緒に連携してやっていただいている。
- ・大会開催2年前に行った「みるカフェ」について。11月15日から26日までの期間限定でオープンし、音声を文字化するディスプレイや音を振動に変換する機器など、多彩なデジタル技術を使い、誰もが快適にコミュニケーションできる体験をしていただく場所として設けた。多くのメディアにも取り上げられ、期間中、約4,500名の方々に来店いただいた。
- ・次に、子供向けに作成したコンテンツ「しゅわしゅわデフリンピック」について。子供たちが踊りながら手話言語に触れるきっかけにしてもらうことを目的に制作した楽曲となっており、先月2月13日に都内の幼稚園でお披露目会を実施した。
- ・「デフリンピックハンドブック」は、小学校高学年向けに、デフリンピックや手話を気軽に学べるツールとして作成した。小学生向けではあるが、幅広い世代で活用できるものとなっているため、今年度はデータ閲覧のみだが、来年度は冊子化し、色々な場で展開していく。
- ・最後に、「アスリート交流イベント」について。きこえる・きこえないに関わらず、子どもたちとアスリートと一緒にスポーツを楽しむ交流会として、2月25日に葛飾ろう学校で

実施した。当日はきこえる・きこえない小学生が合わせて約30名集まり、世界陸上やデフリンピックに出場したアスリートと一緒にスポーツを楽しんだり、参加者同士の交流を体験してもらった。

- ・令和6年度は、さらにデフリンピックの気運を高める様々な取組みを推し進めていきたいと考えている。これらの取組みは、あくまでも東京都の事業であるので都内で実施し、都民を対象にしたところもあるが、特に「みるカフェ」などは主要な放送局、新聞紙や多くのwebメディアでも取り上げていただき、東京都事業ではあるが全国の気運醸成に繋がるような効果もあったのではと考えている。

【意見交換】

(久松委員長)

- ・それではここで、出席者の方々から意見を頂ければと思う。

(横山委員)

- ・事業計画と予算について賛成をした。いよいよ大会まで1年半というところに迫ってきており、大事な時期を迎えている。運営委員会として進める気運醸成事業、それから東京都としても気運醸成に力を入れていくと、そういったタイミングになってきている。併せて、具体的に競技の準備を本格化させていくタイミングでもあるので、事業団を含め三者が、これまで以上に十分連携して取り組んできていると思っている。またそういった認識を皆さんで共有しながら、準備を進めていければと思う。東京都としても、アクションブックと称する冊子を作り、都として来年度、再来年度、デフリンピックと世界陸上に向けてどういったことをやっていくのかというものをできるだけ具体的に分かるようにした。

これに基づいて事業を展開していくということで、只今都議会において、来年度に向けた予算等について審議を始めていただいているところであるので、しっかり取り組んでいきたいと思っている。

- ・運営委員会としての全国における気運醸成について。これは今ご報告を頂き、大変良い取組みが進んでいると思った。10万円を補助するということが、コンプライアンスが重視されている時代の中で、各地域の連盟においてしっかりした事業を行い、それに伴ってしっかりした経理も行われているということについては、引き続き当運営委員会としても確認をしながら進めていただければと思っている。その点についてもよろしくお願ひしたい。

(延興委員)

- ・全国及び東京都において、色々な普及啓発の事業が進んでいるということで大変心強く思っている。今回、私はプライベートでトルコ・エルズルムの冬季デフリンピックに応援に行っていたが、ろうあ連盟にお世話になりとても充実した視察や観戦をすることができた。

また、現地で東京都とスポーツ文化事業団の職員が熱心に色々な調査をしており、大変なやる気を感じ、感銘を受けたところ。短く4点お話しをさせていただきたいと思う。

- ・短期間の準備で本当に大変だったと思うが、トルコの人たちがとても頑張ったこと心から敬意を表したいと思う。色々細かい問題がたくさんあったのだと思うが、各選手団がとても協力的で、何とかみんなで大会を支えて成功させようというのが伝わってくるととても温かい大会であった。
- ・2点目。デフリンピックはコミュニケーションの祭典と伺っていた。まさにその通りだった。きこえる人・きこえない人、手話言語のできる人・できない人、色々な言語の人、全

てが入り混じって、全員が何とかコミュニケーションをとって理解しあって、友情を育もうという雰囲気溢れた、とても温かい大会だということに大変感動した。

- ・ 3点目。残念だったのは、関係者以外の観客が誰もいないということ。今回私が現地に行き、日の丸を振って応援をすると、選手団は皆びっくりしてとても喜んでくれた。また、他の国の人も応援をするととても喜んでくれた。来年東京では、たくさんの方が日本のチームを応援するのはもちろんだが、さらに世界中から集まる外国のチームもたくさん応援してあげること、それが最大のホスピタリティだと思った。このあたりは東京都の得意なところだと思うので、色々と工夫していただければと思う。
- ・ 4点目。これは私の個人としての決意だが、これから来年のデフリンピック東京大会に向け手話言語をもっと勉強し、皆さんと一緒に東京大会を素晴らしい大会にしたいと心から感じて帰ってきた。

(久松委員長)

- ・ 今回トルコ政府の支援がどうだったのか。トルコは以前、夏のデフリンピックをしており、今回は冬季ということだが、その違いは何かあったか。

(倉野事務局長)

- ・ 私は2017年のトルコのサムスンで開かれた夏季デフリンピックに、日本選手団の総務として参加した。あの時、大変目立ったのが、トルコ政府が丸抱えで大会の準備をやっていたという実情である。そのため、組織委員会もほとんどがきこえる方ばかりであった。大会自体もやはり政府丸抱えで進めているということもあり、よく言えば立派なと言えるが、ある意味で、トルコのろう者の顔、手作りの大会感というものの雰囲気が見えなかったと感じていた。
- ・ 今回、冬季デフリンピックの開催地であるエルズルムで、組織委員会のメンバーとお会いし、東京2025デフリンピックの参考になるようにということで色々聞いてまいったところ。対応してくださったのは、組織委員会のろうの責任者の人たちばかりだった。確かに、準備期間も半年間という大変短い中でやっておられ、組織委員会の方も、2017年のサムスンデフリンピックみたいに立派なものではないのだとおっしゃっていた。本当に手作りの大会で、色々と不手際があると思うが、それを承知のうえで話を聞いてほしいというようなお話が何度もあった。しかし、やはりそのメンバーの皆様が頑張って大会を成功させようとしている様子、また各国選手団も色々な不便な状況が正直出ている中、そこも大会に協力しようと、お互いに助け合って協力して大会を運営していこう、皆仲間なんだからと、そのような温かな雰囲気の中で運営されており、私個人的にはすごく居心地が良い大会だなと感じた。

(太田委員)

- ・ 今、私は日本選手団代表ということで、トルコのエルズルムに来ている。細かな情報発信などはろうあ連盟のホームページに載っているので、ポイントだけ申し上げたいと思う。
- ・ 3月2日から3月12日の冬季デフリンピック大会の半ばくらいの日程を終えたところ。日本からの選手団67名は、2月23日から徐々に第1弾、第2弾という形で、今は全員が到着し大会に参加している。日本を旅立つ前に健康診断やインフルエンザ、コロナ等の感染症の検査もしっかりと済ませ、皆感染なしということで皆元気にしている。
- ・ アルペンスキー、スノーボード、カーリング、フットサルの4つに日本の選手が参加している。メダルの獲得状況だが、現在、銀メダル1つ、銅メダル3つの計4つである。銀は

アルペンスキーで高校生の田苗選手。銅メダル2個がスノーボードで中学生の和田選手。また、カーリングミックスダブルスで銅メダルを獲得できた。現状としては以上である。あとは、カーリング団体戦が残っているのと、フットサルもまだ戦いが続いているが、これもメダルの可能性が高い状況であり、応援をし続けていきたいと思う。大会はまだ続いており、健康に留意し、選手団を管理しながらしっかりと努めてまいりたいと思う。

(早瀬委員)

- ・今回アスリートの立場で出席している。やはりデフリンピックの準備という部分では運営面の皆様の協力が大きなところだと思う。今ちょうど冬季デフリンピック大会が開かれていてその報告であったとおりに、いつも言われるのは冬のイメージが非常に薄く、夏ばかりクローズアップされている。冬季デフリンピックって忘れられているんだよねということをよく言われるが、そんなことはないと思う。私は神奈川に住んでいるが、スノーボードの和田選手と一緒に、トルコへ行く前に神奈川県副知事に表敬訪問させていただいた。その時に和田選手のほか、フットサルの選手も何人もいるので、皆で表敬訪問したりというようなそういう機会を作っていくということが大事だと思っている。夏季デフリンピックをクローズアップしていくのももちろん大事だが、冬季デフリンピック両方の大会を合わせてのデフリンピックである。これらも是非普及していきたいと思っている。

(畑中委員)

- ・なかなか時間がない中、ガバナンスコード対応や求められている規程類、各委員会等を整備していくのは本当に大変だと思う。ただ、コンプライアンスというのは、逆にきちんと規則を作り、それさえ守っていれば誰からも文句を言われず、自分たちの身を守るものであるのをもう一度認識していただいたうえで、時間はかかるかもしれないが、一つ一つ、着実に決められたものを整備していただければと思う。

(薬師寺副委員長)

- ・コンプライアンスに係る研修や書類について、私どもだけではなく、競技団体の皆様方にもそれを守っていただく必要があるかと思う。私どもはこういうことをしているが、競技団体の皆様はどうか、とお尋ねいただく機会も必要なのではないかと。そこを運営委員会の方でも発信していただきたい。
- ・あるデフリンピックのイベントで、大会エンブレムのシールを頂いた。その時には、エンブレムのバッジも一緒に配っていたが、そういうイベントをやっても、どこからこのエンブレムのシールとバッジをもらえるか、知っている人はそこからもらってきて参加者に配れる、知らない人はそれをもることができない。そのため、良い大会を開いたとしても、こういうものをお持ち帰りになっていただくことはできない。例えば、私は空手の大会にも参加をしたが、その大会では、聴者の空手を練習している子どもたちとろう者の空手の練習をしている子供たちが戦っていた。そこでは光でサインを伝えており、きこえる子供たちも同じように光で見えるようにしてサインを伝えるということがその大会の特徴だったが、残念ながら、そこではやはりこういったエンブレムのものをお配りできなかったのがとても残念。とても良い機会だったと思うが。あるイベントでは、エンブレムの大きな看板が入口に飾ってあった。皆それと一緒に写真を撮り、SNSで発信することができていたが、残念ながら空手の大会にはそれがなかったため、なかなか発信することができていなかった。気運醸成という時に、そのツールがなければ気運醸成ができない。どうい

ろでどういうツールができて、どういうツールがもらえるのかということなど、競技団体の皆様方、もしくはイベントを開催しようとしている地域のろうあ連盟の皆様方にお知らせ頂いておけば、そのようなことなく皆様方が平等に使うことができ、平等にもらうことができるので、気運の醸成もできるかと思う。是非、東京都にはそのようなこともお考えいただければと思います発言させていただきました。

(清水部長 (東京都))

- ・都の方でも、エンブレムのほかシールなどのツールを使って気運醸成をしているところ。東京都の都営交通や都の施設はもちろんのこと、都内の区市町村、あるいは他の道府県の方にもツールはお配りしているところだが、多くの方に行き渡らないというご意見を他からも承っている。どういう形で多くの方に行き渡らせるかということの中でも検討し、少しでも多くの方にエンブレムを通してデフリンピックを知っていただく機会を作っていきたいと思っている。

(谷 貴幸 氏 (国立大学法人 筑波技術大学 副学長 ※オブザーバーとしての出席))

- ・エンブレムについて、筑波技術大学の学生が作成したが、そういった教育的な機会も与えていただいて本当に感謝している。エンブレムが人に触れる状態になってくると、作った学生も気分が盛り上がり、自分は大きいことをしたんだなという気持ちになってくれるかなと思っている。
- ・2025年に向けてだが、筑波技術大学にはきこえない大学生 200名ほどいるが、是非全員がボランティアや応援などにかくデフリンピックに関わるという機会を作りたいと考えている。デフリンピックに関わることができるのは一生に一度、というと大袈裟かもしれないが、そういう学生もいると思うので、世界中のアスリートと関わる機会を逃すことはないと思う。東京都、ろうあ連盟と協力し、是非大学としても学生がボランティアに行きやすい環境を作っていければと考えている。

【議事進行】

(久松委員長)

- ・委員の皆様から色々と貴重なご意見を頂き感謝申し上げます。事務局としても今後さらに身を引き締め、準備を進めてまいりたいと思っている。
- ・今回は議題2つのご承認を頂いた。改めて御礼申し上げたい。

【質疑応答】

(久松委員長)

- ・その他について、出席者の皆様、ご質問等あるか。

(薬師寺副委員長)

- ・今後東京都は様々な資料を作成されると思うが、その際英語、日本語というだけではなく、例えばQRコードのようなものを読み込めば国際手話でそれが見られるようなものがあると助かるのではないかと思う。もちろん長文ではなく、短い文章で作られたものの方が理解しやすいのではと思うので、よろしくお願ひしたい。トルコの夏の大会の際の辞典がそうだったと思うが、QRコードを読み込んだら国際手話が動画で見られるというものもあった。日本も技術を持っているので、そういった技術力も活用していただければと思う。

(越智 大輔 氏 (公益社団法人東京聴覚障害者総合支援機構東京都聴覚障害者連盟 ※オブザー

バーとしての出席))

- ・当連盟でもデフリンピックのPRに色々と取り組んでいる。特に2月24日、25日の2日間で「耳の日記念文化祭」を開催し、そこでデフリンピックについて色々と発信をした。多くの方々にお集まりいただき、延べ1,800名の方々にアピールできた。デフリンピックについてのPR、例えば東京都からお借りしたエンブレムの大きな模型も展示し、ご覧いただき、多くの方々が写真を撮っておられた。また、陸上のスタートランプもお借りし、それも実際に多くの方に体験していただいたことで、関心をもっていただけた。デフの競技団体のないテコンドー、レスリング、ハンドボール、射撃といった競技についても、実際に体験できるコーナーを設け、経験していただいたのでかなり普及ができたかなと思っている。そのタイミングで東京都からバッジも頂き、皆さんにお配りすることができ、本当に皆さん喜んでおられ、非常に大きな効果があった。感謝申し上げます。

【議事進行】

(久松委員長)

- ・年度末で大変お忙しい中、皆様にはご迷惑をおかけすると思うが、ご協力よろしくお願ひしたい。
- ・本日は様々なご意見を皆様から頂戴した。大会成功に向け、準備を恙なく進めてまいりたいと思う。
- ・本日は大変寒い中お集まりいただき、感謝申し上げます。

以上